

美人女子大生れいな様の裏の顔： 圧倒的強者による支配と絶望

シーズン1 第1部：完璧美少女の裏の顔と新たな捕食

第1話: 新たな獲物との出会いと捕食

れいなは 18 歳、大学入学直後の新入生だった。178cm の長身に艶やかな黒髪ロング、完璧な美貌と超絶グラマラスなボディは、入学式から周囲の視線を独占していた。超巨乳が服を押し上げ、クビレから広がる超巨尻のラインは、歩くだけで男たちの息を奪う。それでいて、れいなはいつも普通の女の子のように笑う。

「えー、そんなことはないよ〜」

と照れたふりをして。

周囲は誰も知らない。この完璧な美少女が、日常的に男を支配し、壊す裏の顔を持つことを。



入学してすぐ、れいなはバスケサークルに入った。ゆるいインカレサークルで、練習は軽く、飲み会がメイン。れいなは異常な身体能力ですぐに誰よりもうまくなるが初心者のふりをしていた。本性を見せたときの、男たちの驚きと絶望の表情をみるため、普段は完璧に普通の女子大生を演じていた。

そんなサークルで、れいなに興味を引いたのが 4 年生の拓海先輩だった。185cm の長身で爽やかなイケメン、短髪に優しい笑顔。ムードメーカーで面倒見が良く、後輩に慕われている。彼女持ちでチャラくなく、真面目で女性にモテるタイプ。

拓海は自分のルックスとセックスに内心自信があり、過去の彼女たちから「すごい」「大きい」と褒められてきた。サイズは 17cm、一般的には巨根扱いされ、自慢の種だった。

れいなはすぐに誰よりも上手くなっていたが、あえて下手なふりを続け、練習中

「拓海先輩！ 教えてください～」

と体を寄せて甘える。

拓海はれいな的美貌に下心を必死に抑え、真面目に指導するが、内心ドキドキ。「彼女持ちだし、、、」と自分に言い聞かせる。

練習後の飲み会で関係が深まり、れいなが拓海をご飯に誘う。

「先輩♡お礼に、おごりますよ！」

拓海は彼女を思い浮かべ躊躇するが、れいなの魅力に負ける。

高級なイタリアンで、れいなのは可愛いワンピース姿。超巨乳が服を押し上げ、クビレと巨尻のラインが完璧だった。拓海は彼女に悪いと思いつつも魅了される。

「れいな、ほんと綺麗だね」

ワインで話が弾み、拓海はれいなの手を握る。

「れいな、俺……君のこと、気になってるかも」

れいなは頬を赤らめ、

「先輩……私もです」

と耳元で囁くが、内心では

「この先輩、どれくらい私を満足させられるかな～♡」

と拓海の格付けを始めようとしていた。



食後、れいなは

「私の家、近いんです。もっとゆっくり話しましょうよ～」

と胸をくっつけながらマンションに誘う。

拓海はれいなの魅力に抗えず、ついて行く。

高級なマンションのリビングでワインを注ぎ、れいなは拓海に寄りかかり、

「先輩、キス……していいですか？」

と甘える。

拓海は下心が爆発し、れいなに熱いキスをする。拓海はれいな
の服を脱がせ、れいなボディが露わに。完璧な超巨乳、クビレ、巨
尻。拓海は興奮で息を荒げ、

「れいな……最高……」

と抱きしめる。

れいなは拓海を押し倒し、期待した表情で拓海のパンツに手をか
ける…



あらわになった拓海の 17cm にれいなは冷たい目をしながらも

「わ…先輩の立派…」

とつぶやく。

れいなは

「先輩、後ろから入れてください……」

と甘く。

拓海の 17cm が包まれ、

「うっ……れいな、きつい……最高……」

と喘ぐ。

拓海は自信満々で腰を振り、れいなへの反応を楽しむ。れいなは感じたふりで喘ぎ、超巨乳を揺らし、拓海をさらに興奮させる。拓海はれいなへの締めつけ耐えきれず、1回の射精で息を荒げる。

満足げに抱きしめ

「れいな、良かったよ」

と言う拓海の胸で、既にれいなの中で格付けは完了していた……。